

# 特別活動（ホームルーム）指導案

令和元年 11 月 15 日（金） 3・4 校時（11:00～12:50） 1 学年 大会議室

指導者 高野 敬介

## 1 題材名 「主体的な就業体験に向けて今後の学校生活の見通しを立てよう」

## 2 題材観（生徒の実態を含む）

本題材は、「高等学校学習指導要領解説 特別活動編」の「第3章 各活動・学校行事の目標と内容 第1節 ホームルーム活動 2 ホームルーム活動の内容 （3）一人一人のキャリア形成と自己実現 ア 学校生活と社会的・職業的自立の意義の理解」に当たるものである。

研究協力校では、進路指導部とデュアルシステム委員会、高大連携・進学対策委員会との連携を強化し、就業体験や大学等の訪問見学を通じた体験的活動を中心に生徒の社会的・職業的自立に向けたキャリア教育の充実を図っている。特に2年次での長期就業体験（デュアルシステム）は、全生徒が地元企業で一学期に3日間、二学期に3日間、計6日間の就業体験を行うものであり、望ましい勤労観・職業観の形成を促している。その体験は、生徒の視野を大きく広げ、自らの適性を考える機会となるとともに、自らの進路を積極的に考え、自己の志望を固める契機となっている。しかし、一部の生徒は就業体験を一過性のイベントのように考えており、就業体験先の選択に対して、主体的に決めることが十分にできていないという現状がある。今後、将来の進路選択につながるコース選択を行う時期を迎えるに当たり、就業体験の前に段階的な事前学習を取り入れ、生徒自身の就業体験先を決定することが必要となる。

そこで、1年次の三学期に行う就業体験先の選択に向けた事前学習として本学習活動を行う。研究協力校では、農業関連企業での就業体験を一定数の生徒が志望し、将来、農業に関わる職業に就く生徒もいる。将来の職業選択の一つとして、農業という職業を考えさせるためには、農業に対する理解を図るとともに、社会的・職業的自立の意義、社会の中で役割を果たし自立して生きていくことと働くことを結び付けて意識させることが必要である。就業体験に向けた事前学習を通して自己課題を見いださせ、進路選択に対して主体的に考える態度の涵養を促し、今後の学校生活に見通しをもたせたいと考え、本題材を設定した。

## 3 研修との関わり

研修先企業である有限会社三輪農園では、水耕栽培によりミツバを年間通して生産するとともに、水稻栽培（米）と麦栽培（大麦・小麦）の二毛作を行っている。「チームで仕事を行う」を社訓とし、日々の業務ではペアによる業務の効率化と社員同士のコミュニケーションの活性化を重視している。また、社員を第一に考え、社員にとって快適な職場を作ることが大切に行っている。年間を通して多品目の農産物を効率的に生産し、消費者に「安全で安心なものを提供し、おいしく笑顔になってもらいたい」という想いを込め、地域の産業を担っているという責任をもって農業生産者という立場で食糧生産に貢献している。さらに、三輪農園は、農業高校や特別支援学校等の生徒のインターンシップの受入れ、地元の小学校との食育活動や地域景観の保全、社会人雇用の創出など、様々な社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。このように農業という職業とは、農産物の生産以外にも社会貢献として重要な役割を担っている。これら社会体験を通して学ぶことは、働くことと社会的・職業的自立の意義を結び付け、自らの体験から生徒に指導することができる。また、実社会で活躍する職業人の体験談を基に就業体験に向けた指導の改善を図りたい。

## 4 指導方針

- (1) 三輪農園の農業経営や社会貢献活動の事例を示して農業について理解させる。
- (2) ペアワークやグループワークを通して、三輪農園の経営方針を実践的に理解させる。
- (3) 実社会で活躍する職業人の体験談を基に、現在の学習が将来の社会・職業生活の基盤になること

に気付かせ、今後の学校生活の見通しをもたせる。

- (4) 本時までの学びの過程を記述し、振り返ることができるアンケート1、2の作成と活用を通して、生徒が自己の成長や変容を自己評価できるようにする。

## 5 評価規準 (事前の活動→本時の活動→事後の活動)

評価規準	集団活動や生活への 関心・意欲・態度		
	集団の一員としての 思考・判断・実践	・社会的・職業的自立の意義について意識し、今後の学校生活で主体的に学習に取り組むよう、就業体験に向けた自己課題を見だし、今後の学校生活の見通しを立てている。	
	集団活動や生活につ いての知識・理解		
時間	伸ばしたい資質・能力		主な学習活動
	知識・理解	思考・判断・実践	
事前の活動		・これまでに学んできたことを振り返り、自身の進路に対して考えている。	・アンケート1への回答
本時の活動		・社会的・職業的自立の意義について意識し、就業体験を見据えた自己課題を見いだす。 ・課題から今後の学校生活の見通しを立てる。	・グループワーク ・発表学習 ・学習内容の振り返りとアンケート記入
事後の活動			・アンケート2の振り返り報告を受ける。

## 6 本時の学習指導

- (1) **目 標** 農業に関する職業理解と、社会的・職業的自立の意義について意識することで、就業体験に向けた課題を見だし、主体的に学習に取り組む。
- (2) **準 備** 【教員】演習教材、ワークシート、プレゼンテーションスライド、プロジェクト、PC、実物投影機、ハンドマイク  
【生徒】筆記用具
- (3) **展 開 (50分・10分休憩・50分)**

学習活動 予想される生徒の反応	時間	指導上の留意点及び支援 評価 (◎努力を要する生徒への支援 ◇評価) (太字はキャリア教育との関わり)
<導入> 1 本時の目標を確認する。 ・事前アンケートの結果から「将来就きたい職業についての理解が不十分である」、「就業体験に対する意識が低い」という共通の課題を認識する。 ・課題を把握した上で、本時の目標を知る。	10分	・教員の自己紹介をする。 ・事前アンケートの結果をスライドで提示し、課題に気付かせる。  ・本時の目標を提示する。



<p>&lt;まとめ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・アンケート2を行う。</li></ul>	10分	・アンケート2を実施し、アンケート1との変容に気付かせる。
--	-----	-------------------------------